

北部太平洋大中型まき網地域漁業復興プロジェクト（波崎地区）②③

事業実施者：はさき漁業協同組合

使用船舶名：第八十八稻荷丸船団(199トン)

支援期間：平成22年4月1日～平成27年3月31日

(大中型まき網漁業)

(取組の内容)

- 操業形態の合理化：4隻体制(網船、探索船、運搬船2隻)から3隻体制に移行、トリプレックス方式(揚網システム)を採用し、乗組員を4年目に8名縮減(47名→39名)
- 生産コスト削減：船団縮小による燃油消費量削減(15%)、人件費、メンテナンスコスト等の削減
- 高付加価値製品の生産：脱血装置を導入し、脱血サバ製品を生産
- 適正価格の形成：サバの品質判断の参考に脂肪分測定器を導入



新船導入



トリプレックス



脱血装置

(事業の成果)

- 水揚量は従前より約25%減少(15,000トン→11,200トン)したが、**水揚単価が約37%向上(54円/kg→74円/kg)**したことにより、水揚高(830百万円、5年平均)は計画(782百万円)を上回った。水揚高以外の収入を加え、**償却前利益400百万円(5年平均)**が得られた。
- 操業形態の合理化により、**燃油消費量は計画1,350klに比し261kl(約19%)削減された。**